

水島公民館 意見交換会要旨録（災害対策）

日 時：令和元年 11 月 26 日（火）19:10～20:00

場 所：水島公民館 2 階ホール

出席議員：義浦議員、沼田議員

義浦議員

先ほど、足早に災害に関して説明させていただいたが、皆さんも災害に関して色々な思いを持っていると思う。ここには千年に一度を想定したハザードマップも持ってきた。こういうものも見ながら、どうするかということを熟知していただきたいという思いもある。また、現場にいる皆さんが、常日頃考えている自由なご意見を聞きながら、しっかりと受けとめ、市政にも反映したいと考えている。忌憚のないご意見を聞かせていただきたい。

参加者

千年に一度ということを言われたが、千年と言ったら気が遠くなる。身近に感じてもらえる表現の仕方があると思う。水島の宮川の橋が、もう少しで水が被りそうだった。千年ではなく、来年あるかもしれない。そういう意味では、どんなことをしなくてはいけないのか、どんなことを心がけなくてはいけないのかということを考えていかななくてはならない。もう少し危機感のあるような表現してもらわないとだめだと思う。他市などでよく見かけるが、海拔何メートルという表示を少し細かく、もっと多く出してもらった方がいいのではないかと思う。そうすれば、もしもの時にはここまでくるということがイメージできると思う。

義浦議員

今ほどお見せしたハザードマップについては、法律の改正に伴い、千年に一度の規模を想定したもので作成していると聞いている。これくらいすごい規模になるとこれぐらい水が来るということを認識していただきたいということである。現在のハザードマップが出る前は、もっと被害規模が小さいもので想定されていたため、全体的に色が薄くなっていた。自分の住んでいる地域にどのくらいの規模の被害が出るということは、各々把握していただき、どこに避難すればいいのかということによって備えていただきたいと思う。

参加者

ハザードマップの避難所は、全て公的なところが淡々と書いてあるだけである。実際、長野のケースを見ていると、そこまで行けない人がいっぱいいる。そのときに、どこに避難すればいいのかという場所をもっと、例えば、「高速道路があるから高速道路の上に逃げろ」とか、身近なところにどこに逃げればいいのかということをやらないと、「氾濫し

ている川を越えて、どうして公民館まで行けるのか」というような話が出てくると思う。これは単に、行政が自分たちの考えている場所を避難場所として指定しているだけで、そこに水が漬いていたら次どうするかという話がひとつも出てこない。この前の長野の場合でも、「避難場所に行ったけど、また、避難場所を移動して欲しい」というような話が出る。そういうことを入れ込んだ形にしていかないといけないと思う。

義浦議員

そのとおりだと思う。避難場所として標記してあるものは、あくまで公共の施設を避難場所として設定しているということを表示している。川があるなどの場合はそこまで行けない人が出てくると思う。高速道路の上に逃げればいいというお話もあったが、そういう情報は地域に住んでいる方々が一番理解できるのではないかと思う。例えば私の住んでいるところは北蟹谷であるが、年に1回防災訓練をやっている。その中で、まず、自分たちはどこに避難するのかということで、各々がどこに避難すれば安全かということを考える。そこで、何人避難したということも北蟹谷公民館の本部に報告している。状況把握をそこでやり、危険度を判断して、次にどこに避難すればいいのか指示を出している。そのようなことを北蟹谷の場合はやっている。そういう意味では、地域に住んでいる人が一番状況を理解していると思うので、皆で勉強しながらやっていき、次に市に対して情報を伝えていくということも必要だと思う。少し個人的な意見も言わせていただいたが、大事な命を守るためには、地域で避難場所のことや、地域にいる高齢者のことなども話し合いながら考えて守っていくという取組をしていただければいいのではないかと思う。

参加者

最近特に50年に一度の大雨というような表現が見受けられるが、私どもからすれば、そういう表現はピンと来ない。設計の基準からいうと、時間計50ミリの用水を作れば、それが最高の用水なので、それ以上雨が降れば、設計的にダメである。「時間計これだけのものになる予想なのですぐに避難してください」というような表現の方がいい。長野でも情報が入ったのが遅くて外に出たときにはもう水浸しだったので、仕方なく家の2階に避難したという方もいる。

義浦議員

そういう話を聞いて、現実的にその雨の量はどのようなものか理解できない。具体的にどのくらいの量の雨が降って、用水がどのような状況なので、どうしなくてはいけないのかという情報をいかに皆さんに上手く伝えるか。何十年に1回の雨だからというような抽象的な表現ではなく、もっと具体的な伝え方をすることによって、避難への備えをすることができるのかと思う。

参加者

水防の関係について、私は東蟹谷の山間部の方で、頭首工や用水の関係で、用水番の人がいる。東日本大震災の際には、消防の人達は頭首工の門を閉めに行くときに災害に遭われた。各地区にいると思うが、ボランティアのような形で少ない手当でやっているのではないか。農業をやっている人は農業の関係でやっているところもあると思う。水島の方でも庄川系統の方でため池たくさん作って大きい工事をやっているが、そのように地域でがんばっている人のことを皆さんわかっているのかなと思う。

義浦議員

集落で用水を持って、維持管理をしているところについては、そのように用水当番を決めて、地域の安全を考えながらやっているということは、私はわかるが、小さいときからそういう人が当たり前に来てやってくれているということは当たり前になっているが、よくよく考えると結構大変なお仕事をされていると思う。そういった維持管理をしているということを役所の方でもどこまで細かく把握しているのか。また、もしくは、雨が降ったときに特定の場所だけ何かしておけば被害が少なくなったというようなこともあるかもしれないので、そのような情報は集めるべきだと思う。

参加者

千曲川で大変な被害があったが、あれは、千曲川があのようなことになるということを想定してなかったのではないかと思う。川床が非常に高く、住居のところが低い。どこが決壊しやすいのかということや行政も住民も把握していなかったということや考えると、例えば小矢部川で大雨の際、どこがどうなのかということが大事、それから、それが起こったときに情報をどういう風に伝えるのか、避難すべき情報をどういう風に伝えるのかということが全くなっていない。情報の整理方法を行政が主体となってやっていただきたいと思う。

義浦議員

情報の出し方によって皆さんの命が守れるか大きく変わってくることもあると思う。大事な事だと思う。

参加者

防災無線が整備されているというが、大雨の際は家の中に籠もって雨音が大きく聞き取れないと思う。スマホには情報が入ってくるが、防災無線がどこまで機能するか疑問である。どういうふうに知らせるのかということが大事だと思う。

参加者

住居が川底よりも低いという話があったが、通常は支流から小矢部川に水が行くが、それが流れない。この前の台風19号の時には、水島にあ

る洪水調整池が非常に効果的だったということだった。小矢部にはその1個以外にも洪水調整池があるのか。

義浦議員

1個ではない。それ以外にも西中の交差点の方にもある。

参加者

雨が降ったときにどこがどうなるのかということを経験できると、一時的に雨を逃がすということが一番現実的だと思う。川底をどうするかということは何十年もかけないとできないことである。具体的に計算をしてそのような洪水調整機能を持った工事をやった方が良いと思う。

義浦議員

他にご意見はないか。洪水だけでなく、他の話でも結構である。

沼田議員

今お話を聞いていて、確かにおっしゃるとおりである。小矢部市は、何とか難を逃れている状況であるが、今後いつ来るかわからない、必ず来るであろうという想定の下に、できれば家族で、自分たちの班や町内などで日常的にこのような話をしておくことが大切だと思う。水島公民館も避難所になっているが、洪水になった場合には、浸水して2階ぐらいしか使えないという状況になる。ハザードマップを見ると北蟹谷や蓑輪山などは洪水に対しては良いかもしれないが、水島はほとんどダメである。避難情報が流れた場合にはどこに行くか考えていただきたい。また、行政は、皆さんからの声が上がらないと動かないと思うので、そのような声を上げていただきたい。洪水調整池は、大きいものは水島地区に1つ、若林地区に2つ。ただし、あれだけのものでも大丈夫なのかということもある。どれだけの雨量ならば大丈夫などというような情報は行政で把握できると思う。的確に情報を流さなくてはならないと思うので、そういうものはこれから作らせていきたいと思う。

参加者

命を守る行動と良く聞くが、実際は何をすればいいのかわからない。

参加者

災害が起こった後のことについても平日頃家族や地域で話し合わなければいけない。その後の環境、病院などの手配のこともある。地域で担当者を決めているが、浸透しているかという浸透していない。地域同士の連絡、あるいは、家族や兄弟とも連絡できない。若い人ならスマホがあるが、高齢者は困ると思う。そういうことも考えてもらいたい。

沼田議員

防災士の方を招いた講習会などを各地区でやっていると思う。津沢でも2回ほどあった。例えば、避難所でどのようにしていけばいいかというようなことについても教えてもらった。

参加者

確かに非常にありがたい。しかし、一番困るのは、ずぼらな人や、講習などを聞きに来られないような人をどうするかということである。考えていただきたいと思う。

参加者

平和ぼけしていると思う。そのような話は、公民館祭りなどでもやっているが、来られる人はいつも聞いているが、聞いたからといって、家族全員に話をするわけではない。動員がかかったから行って聞いてきただけというような状態である。ハザードマップに関しても、どういう状況になったときに水が漬いているのかわからない。高速道路がいっぱいあって、ボックスがいっぱいあって、その横に川が流れていて、ちよつとずつ流木が来て、ボックスが全部埋めたときに、高速道路がせきになって、水深がもっともつと上がるような話が、庄川上流から流れてきたら高速道路で止められるというような想定はここにはない。では、この水はどこから来たのか。均等に雨が降って積み上がったものがこうなったのか、どういう想定なのかかわからない。具体的に、小矢部市のどこかで決壊して、それが、どこかでせき止められて、これだけの水位になったときに危ないというような具体的な話がない。だから、ハザードマップは絵に描いた餅のような話で、例えば、この地区でこのようなことが起きたときにこのような事態になるというようなことをシミュレーションで出すとか。以前に南砺市で小矢部川が決壊したことがあったが、そのときに、どのようなことが起こったので、このようになったというような具体例があれば皆もわかるのではないか。

参加者

国土交通省などでは、小矢部川の危ない箇所は把握しているのか。

義浦議員

おそらくやっていると思うが、公表はしていない。

沼田議員

おそらくだが、急を要するところに少しづつ手を付けていると思う。

参加者

現実的に実態を把握するためには、シミュレーションした映像でも流してくれるといい。

参加者

私は土地改良区の世界もしているが、水島地内であれば、苗加用水や四ヶ村とか幹線用水路、防災事業、ストックマネジメント事業をやっているが、その設定基準は1時間雨量で確か45ミリほどだったと思う。それ以上降った場合は、洪水調整池に水が入ることになっている。つまり、1時間50ミリ降ったら用水は全部溢れるということを想定してもらえばいい。台風19号の際に長野で降った560ミリであれば、全然ダメである。水だらけになる。100年に一度のものも出してもらえば自分が生きて

いる間に1回はこれくらいの被害に遭うのかなと思える。そういうハザードマップなら自分事として受け止められる。

参加者

洪水調整池ができてから水が溢れたというような事例はない。砺波から下流の人は喜んでいる。

沼田議員

具体的に1時間以上50ミリ以上降ったら、それが3時間降ったらこういう状態になるというようなものをシミュレーションしてやらなければいけない。そういうデータを皆さんの方にお示ししないといけないということだと思う。

参加者

小矢部市では無理なので国交省に言わなければいけない。

沼田議員

具体的なものは私どもにも必要であると言わなければならない。

参加者

もう少し細かく観測所がないと、はっきりしたものがわからない。どこの観測所の情報を見ればいいのか迷う。有事の際には特にそのように感じる。細かく設置してもらえるとありがたいと思う。小矢部には観測所は正式なものはないと思う。

義浦議員

そのとおりである。小矢部消防署のところでは観測することはできるとは聞いているが、川の水位は何箇所かカメラを設置して観測している。正式な公表できるものは小矢部市内にはないが、情報収集としては消防署の方でやっていたりする。正式な観測所を設置してもらうことが一番いい。そういうことは必要だろうと思う。

沼田議員

時間も来たので、我々の議論、お話しの中で何かをまとめることはできないと思う。皆さんのご意見として、正確なデータが必要だということだった。千年に一度というようなことでなく、我々がわかる具体的なデータを示すことは大事だと思う。それに向けて我々もがんばっていく。皆さんも、自分の家に水が漬いたらどうするかということを家族や地区で今後も話し合っていたきたい。今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。

全体挨拶

石田議員

ご案内の時間になりましたが、まだまだ議論し足りないと思います。今回初めての試みで、皆さん全てのご意見をいただくことができませんでした。これを機会にまた、次回に向けて、どうすればいいのか検討していきたいと思います。意見を議会でまとめて、市の方に持っていき

いと思います。これをもって議会報告会を終わりたいと思います。